

## [特別講演]

## 特別講演「昭和・平成の医学の歩みを未来へ」によせて

猪飼 祥夫

北里大学東洋医学総合研究所医史学研究部

歴史を学ぶものには二つの使命がある。一つは過去の歴史を研究することである。もう一つは、現代の歴史を記録することである。過去の事件や事物、また社会の現象や発展の過程など、歴史研究の課題は大きい。医学史研究においても同様である。ヒポクラテスやガレノスの時代から、パレやコッホにいたる西洋の医学史、『黄帝内経』から孫思邈、金元の医家の中国の医学史、『医心方』から曲直瀬道三、蘭学の杉田玄白、古方派の吉益東洞などが日本の医学史とされてきた。医学史研究の対象として、さらに歯科や薬学、看護や公衆衛生、またアジアやアフリカ、南米に至るまで多くのテーマがある。今までの医学史はこれらを課題として研究されてきた。

しかし、歴史を記録する作業はこれまであまり注意されてこなかった。医学史研究でも現代の医学の発展を記録する作業はないがしろにされてきたようにも思われる。現在医学の発展はとてつもないものになっていて、どのような状況になっているのかさえ明らかでない。現在は過去と未来の中間点である。現在は過去の背景なくしてはありえないし、未来は現在の展開の結果でしかない。現在を記録することには、過去を踏まえ未来を展望する医学史研究家の目を持って行われるべきであるが、これは簡単なことではない。

過去の薬物研究が現在の医学につながり、新しい創薬の基礎になったことはノーベル賞受賞の中国の屠呦呦(と・ゆうゆう)女史のマラリア薬の研究で有名になった。このことは、現在が過去と未来の連続線上にあることを示している。

このたびの大会テーマ「歴史を未来へ 医学的伝統の創生をめざして」は、まさしくこの視点を確認する作業である。特別講演「昭和・平成の医学の歩みを未来へ」は、それぞれの分野で第一線に立たれている四人の先生に特別講演をお願いしました。先生方は医学史の研究者ではありませんが、医療器械、歯科、精神科、外科の専門家であり、現在を語ることのできる方々である。現代医学から、未来の医学を展望・創生する講演となると思われる。